

〔基熙公記〕延寶七年十一月廿二日癸丑、新院○後西院より姫君へうつば物語等白銀等拜領、御使平松前中納言、女房姫君等對面、此序姫君名之事、若於江府可被定歟之由、此中風聞之間、令平中納言勤之、重而可書進之由有領狀、廿四日乙卯、從平中納言有文、姫君名字撰給房フツ、穩ハス、定サダ、常ツネ、繁シゲ、常、殊宜之間令治定了、

〔宗建卿記〕享保十九年四月四日、内々殿下○近衛家久、以宗建右被申上之條、令言上後、殿下以紙面被附、宗建被申願、來廿一日、御息被加元服之故也、

名字事

右家熙元服之時、勅撰賜宸翰、元祿年中、家久加首服、内々注進賜御點、今度任祖父例、宸筆願存候、○中略

名字事、若於御尋者、所存者、左之名字之内、被任叡慮於宣下者、猶以可畏存候由也、

内前 種久 基前 内前二字有勅物、古文内前行略之

廿一日、關白殿下、若君有御元服事○中略、大夫殿御名字内前、去十九日、勅撰被染宸筆、殿下御參被申出之了、是陽明○近衛家近代例也、

〔大江俊矩記〕文政元年九月廿四日己未、太田勘解由先日、賴越名乘字并華押之事考遣、今日八太郎へ渡遣了、

誠久マコトヒサ 歸納受○華押略

中庸云、至誠無息、不息則久、

命名

〔御産の規式〕小兒に名をつくる事

一小兒に、をさな名を付る事は、七夜につくる也、名のなき程は、若子とよび主人の子をば、若君とよぶ也、名は父の心にまかせて、何なりとも付らるゝなり、又家により、定りたるをさな名あり、父